

もみじ

Vol. 14

春号



県立広島病院

〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号
TEL(082)254-1818(代) FAX(082)253-8274
ホームページ <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>

(財)日本医療機能評価機構認定病院 認定第JC175号一般病院



理念 県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

基本方針

1. 患者様の権利を尊重し、真心のこもった医療を実践します。
2. 医療事故ゼロを目標として、患者様の安全対策に努めます。
3. 県の基幹病院として、21世紀の高度・先進医療を推進します。
4. 各医療機関と連携を強め、地域医療の充実に貢献します。
5. 健全な病院運営に努め、良質な医療サービスを提供します。

「平成20年度を迎えて」

医療は日進月歩の状態にあり、かつては治療が不可能とされた病気も今では完治が望めるものもあります。今後も医療は進歩し、多くの人はその恩恵に浴すこととなります。しかし、その一方で医療を支える体制に歪が出始め、医師や看護師などの医療従事者の確保が難しくなっています。わが国では毎年医師は3500人程度増加していますが、広島県では減少していることが明らかになり、本年2月1日に「みんなで守ろう広島県の医療」という緊急アピールが県知事など5団体のトップから出されました。その中で、健康で幸せな生活を送るための基盤である医療は、医療者だけでなく、すべての県民が協力して守って行く必要があることが強調されています。

県立広島病院は県の基幹病院として、がん医療、母子・周産期医療、救急医療をはじめとする各分野での高度・先進医療を使命とし、そのための人材確保、医療機器の整備、組織体制の構築などに努めて来ました。がん医療の面では、全国のモデルとなる緩和ケア支援センターの開設、がん化学療法を専門とする臨床腫瘍科の設置、各種放射線治療機器の整備を行うなど、地域がん診療連携拠点病院にふさわしい機能を備えています。母子・周産期医療では、ハイリスク妊婦や低出生体重児などを積極的に受け入れるなど、県の母子総合医療センターとして全国で最も良質な医療を提供しています。また救急医療については、救命救急センターを設置して三次救急を中心に、365日24時間体制で県民のニーズに応えています。さらに腎臓移植や脳卒中、心血管系疾患などの分野でも多くの実績をあげています。

このように当院は、多くの県民の皆様や地域の医療機関から高く評価していただいておりますが、本年度も病院の理念である「県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします」の下に、すべての職員が一丸となって努力してまいりますのでご支援・ご協力をお願い申し上げます。



病院長 大濱紘三

● 第12回バンビの会を終えて… ●

新生児科 部長 福原里恵

平成19年10月27日土曜日、82家族253名という多数の参加者をお迎えして、第12回バンビの会が無事終了しました。

この会は、NICU（新生児集中治療室）開設2年目に「退院した子供たちのご家族を支援する会ができないか」というスタッフの声がきっかけとなって、ボランティアで始まったNICU卒業生の小さな同窓会でした。現在は病院行事となり、院内中央棟講堂にところ狭しと集っています。出生時体重が1500g未満、あるいは入院日数60日以上の子供たちとご家族を対象に、NICU退院後、就学前にこの会を卒業される時期まで毎年ご案内しております。また、院内関係者だけでなく日頃連携させていただいている地域の保健師さんや訪問看護師さんたち、当時の主治医たちも集います。

「バンビのように親の愛情に見守られながら、たくましく育てほしい」という願いがこめられてご家族から命名されたこの会では、子どもたちが楽しく過ごせるように色々な企画をしています。また、毎年保護者代表の方に5分程度のお話をさせていただいています。出生当時から今日までを振り返り、命の大切さ、わが子の愛しさ、家族の結びつき、など喜びも苦労も含めた思いが語られます。このお話は、参加されているご家族の皆さんが改めて今日までを振り返り、共感され、涙なしに聞くことはできません。

当日までの踊りや劇の練習、手作りの飾りつけや遊び道具など、準備にかかる時間と労力はかなりのものになります。しかし、神経をとぎすまして集中治療を行ったお子さんやご家族が笑顔でご参加される姿を見る楽しみで、疲れもなんのその、とスタッフ一同頑張っております。

NICUでは、呼吸・循環・栄養管理に関わる集中治療だけでなく、予期せぬ事態での人生の始まりの中で、いかに家族の絆を支えていくことができるか、という大きな使命があります。無事退院をされた後、さらに素敵な家族になられる様子を、また今年もほのぼのとした気持ちで見させていただくことができるよう、心待ちにしています。

第13回バンビの会は、どのような会になるでしょうか…。



ストーマ外来

外科外来看護師長 小林 恭子

ストーマとは、腸や膀胱などの病気により、人工的にお腹につくった、排泄物の出口のことを言い、人工肛門や人工膀胱とも言われます。ストーマには、専用の装具を装着してケアを行います。それ以外には特に制限のない生活を送ることができます。

ストーマ外来では、主にストーマのケアやケア方法の相談、ストーマに使用する装具の紹介などを行っています。

外来でのケアは、専門の勉強をした看護師2名が中心になって行っています。また、本年度からは、新しくストーマ外来専用の診察室もでき、さらに充実した外来ケアが行えるようになります。



毎週月曜日・完全予約制

● かかりつけ医をもちましょう ●

当院を受診される際は、「かかりつけ医」などの医師・歯科医師からの紹介状をお持ち下さい。病気の経過や治療内容を正確に把握できる紹介状は、診断・治療に非常に有用です。また、紹介状をお持ちいただければ、初診時の別負担2,620円（特定療養費）がかかりません。

これは、日常的な診療や健康管理は、地域の医院、診療所の先生、すなわち「かかりつけ医」の医師・歯科医師に診ていただき、入院が必要な専門的な検査や治療は病院が行うという役割分担です。当院では、患者様へよりよい医療を提供するため、「かかりつけ医」の先生方との連携を図っていきます。病気の早期発見など患者様にとっても大きなメリットのある「かかりつけ医」を是非持つていただければと思います。

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度(2月まで)
紹介率(%)	42.3	48.6	66.4	67.3
逆紹介率(%)	46.4	53.0	64.2	60.1

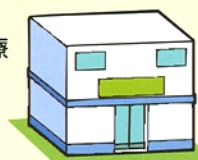
紹介率：初診の患者様のうち、他の病院・診療所からの紹介を受けた患者様の割合です。

逆紹介率：初診の患者様のうち、当院での治療の終了などに伴い、他の病院・診療所に当院から紹介した患者様の割合です。

かかりつけ医との連携



●ふだんの治療



かかりつけ医

●紹介(かかりつけ医からFAXで紹介状を送信することもできます。)

●入院治療

●専門的検査等

●病状安定後



県立広島病院



●急変時の対応

●紹介患者様専用の受付を設置しております。

お問い合わせ：地域連携科(病診連携担当) TEL(082)252-6241 FAX(082)252-6240

● 小児の単径ヘルニア(脱腸) ●

小児の単径ヘルニア(脱腸)は日常よく見られる疾患です。泣いたり咳き込んだりして腹圧が加わると足の付け根(単径部)が膨らみ、やめると膨らみも消失します。これは腸が腹壁筋の隙間から出たり引っ込んだりする症状です。通常痛みはありませんが、時に腸が腹腔へ戻らなくなると、痛みが発生し、嘔吐症状が出ます。

成人のヘルニアは、精管や、精巣への血管の束(精索)が通っている腹壁のトンネル(単径管)を構成している腹壁筋がもろくなってすき間が広がって発症しますが、小児のヘルニアは先天性の原因で発症します。男児は胎生期に精巣が後腹膜から単径管を通して陰嚢へ下降してきますが、図のように精巣と共に腹膜の一部(腹膜鞘状突起)が袋状に下降します。この袋(嚢)は生まれるまでに自然に閉鎖しますが、約10%の赤ちゃんが閉鎖しないまま生まれると言われていています。開いたままの嚢へ腸が脱出してヘルニアになるのです。女児も子宮と大陰唇を結ぶ紐(子宮円靭帯)が下降する時に腹膜の一部が嚢状に大陰唇まで下降するといわれています。従って治療はこの嚢を完全に切除すればよいのです。1~2cmの小さい皮膚切開で、筋肉を傷つけることなく手術できます。2泊3日の入院が基本ですが、希望者には日帰り手術も行っています。手術時間は約10~15分です。

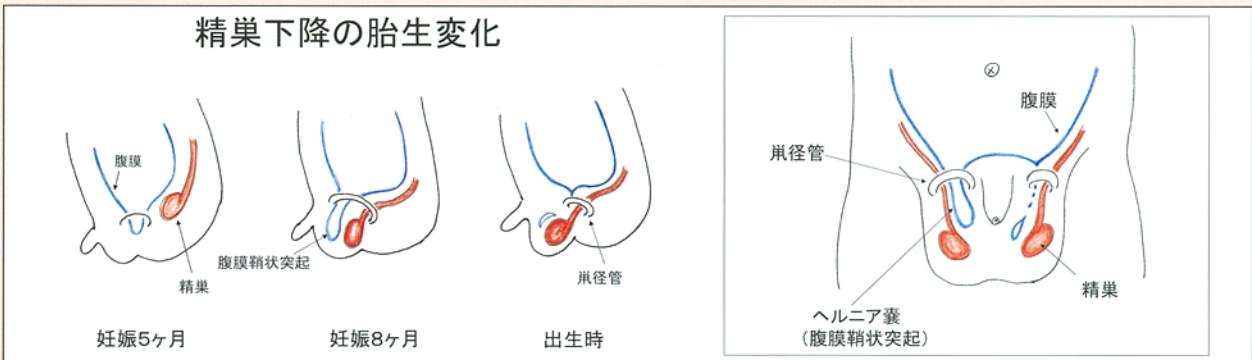


小児外科 専門医
古田 靖彦

ふくましくしょうじょう

当院では年間約180例の手術を行っており、開設以来1万例を超えています。全国でも有数の症例を行ってきました。また、再発率は0.2%以下となっており、全国トップレベルの治療成績です。

精巣下降の胎生変化



意見箱

待ち時間が長いので各科ごとに数誌の新聞などを置いていただきたい。

国際ソロプチミスト平和広島から寄贈をいただいた、テレビ6台を外来に設置しました。

紹介状持参のお願い

初診で来院される際には、「紹介状」をご持参いただきますようお願いいたします。

・当院では、お近くのかかりつけ医の先生と連携し、専門的な検査や入院治療を行い、皆様のお役に立ちたいと考えております。

「紹介状」は、かかりつけ医と当院とを連携するものです。 事前にかかりつけ医からFAXによって診療予約をすることができます。

・紹介患者専用の受付を設置しております。 お問い合わせ：地域連携科(病診連携担当) TEL(082)252-6241 FAX(082)252-6240

診療科案内

総合診療科	一般外科	小児感覚器科	歯科・口腔外科
消化器内科	胸部外科	小児科	リハビリテーション科
呼吸器内科・リウマチ科	整形外科	小児外科	放射線科
内視鏡科	脳神経外科	小児腎臓科	麻酔集中治療科
糖尿病・内分泌内科	皮膚科	産科	(ペインクリニック)
腎臓内科	泌尿器科	婦人科	緩和ケア科
循環器内科	眼科	新生児科	透析・移植外科
神経内科	耳鼻いんこう科	生殖医療科	救命集中治療科
精神神経科	頭頸部外科		臨床腫瘍科



受外来診療

午前8時30分~午前11時00分
※午後の診療は診療科によって異なります。
受付でおたずねください。

休日

土曜・日曜・祝祭日
年末年始 (12/29 ~1/3)

お願い：駐車場は午前中大変混み合います。できるだけ公共交通機関をご利用ください。